

日中科学技術

No. 187
2023. 12. 20

発行所 一般社団法人 日中科学技術交流協会

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 3-1 横山町ダイカンプラザ 302 号

E-mail : jcstea2019@gmail.com / nagakiya@nifty.com URL : <http://jcst.in.coocan.jp/>

電話 : 03 (3666) 6939 携帯 090-7629-6260

Fax : 03 (3666) 6939

日中科学技術交流協会の一層の発展を期待する

当協会理事 千葉大学名誉教授 山岡亜夫



筆者は本交流協会を含め 40 年ほど日中友好活動に関わらせて頂いており、その間、感じたことを書かせていただく機会を頂き有難く思っております。

フォトレジストは半導体の製造に必須材料

で、1980年代、日本は自国製造していたフォトレジストを用い半導体も自国製造し、欧米やアジアの国へ大量に輸出していた日の丸半導体といわれていた。

発展途上であった中国でもフォトレジストを自国生産する技術確立の動きがあり、その基礎研究を行っていたらしく筆者も中国から招聘された。

文化大革命中の中国の情報が少なく、革命後まもなくの訪中だけに筆者にも緊張感があった。しかし、空港での出迎えの方々が人民服をスマートに着こなし、柔らかな物腰し、流ちょうな日本語と笑顔であいさつをされそれまでの不安は一時に払拭された。筆者を招聘した科学院傘下の数か所の研究所で講義をおこなった。講義後に、

質問に来られた研究員の方が講義内容をほぼ完璧に理解しており、中国のトップ研究員の優秀さにビックリした。中国にはこんな優秀な人がいるのかと思わず顔を見つめ、中国の科学技術の発展の可能性を肌で感じた。



1981年中国 万里の長城

このような体験もあり、日中の友好が日本の役にも立つと思ひ筆者は(故)鈴木伸先生より当協会への入会を勧められたとき入会した。

当協会では2010年から毎年2013年まで中国に電子材料調査団を派遣し、2014年には日本で第4回日中シンポジウムを開催した(会報149号及び次頁写真参照)。

日中の研究者や技術者が互いの研究の推進のために自由な情報交換が不可欠である。そのためには、両国の研究者が自由に情報交換できるプラットフォームが必要で

あり、当協会はその役割を要求されるのであろう。特に、気象変動対策、感染症対策、エネルギー効率向上などをはじめ多くの研究にとって必要なのは情報と人である。このような活動を通じて国際的な対立が緩和され、信頼関係が構築されると思わ

れる。日中の場合若い研究者や技術者の交流を盛んにして、交流で学んだ知識でそれぞれの国のために活躍してもらえば、日本にとっても有益である。当協会の一層の活動が望まれる。

日中電子材料交流写真



第1回電子材料シンポジウム 2010年10月31日 中国科学院と共催 於北京新世紀ホテル



上海大学半導体研究室見学 2012年11月4日 清華大学微電子研究所見学 2013年9月13日



第4回電子材料シンポジウム 2014年4月21日 中国集積電路材料産業技術創新戰略聯盟と共催 於 東大山上会館

中国大使館訪問

会長 東京大学名誉教授 山脇道夫



2023年9月25日、山脇会長、岩田副会長、永崎業務執行理事の3名は中国大使館を訪問し、秦参事官（科学技術担当）に面会し、役員就任の挨拶を行った。山脇会長は、協会設立の経緯を日中国交復興以前に遡る両国の指導的科学者間の交流の実現から説き起こし、長年の活動実績、特に研究奨励賞を154名に授与してきたことなどの歴史

を述べ、今後も日中間の科学技術友好に努めたいと述べた。そして、中国大使館の支援をお願いしたところ、秦参事官から前向きな応答が得られた。

中国側の出席者は 秦衛東参事官、劉曉燕一等書記官、鄭心舟アタッシュの3名であった。

在日中国科学技術者連盟設立30周年記念イベントに参加して 会長 東京大学名誉教授 山脇道夫

標記のイベントが11月23日にホテルニューオータニで開催され、筆者は岩田副理事長と一緒に招待され出席した。イベントには中日の科学技術界、経済界、在日華僑・華人代表者ら80人近くが参加した。

在日中国科学技術者連盟（略称：科盟）は、日本で学位を取得し現在は大学、研究所、企業などで活躍する中国出身の元留学生によって設立された任意団体で、会員数は2000名を超えるとのこと。

今回のイベントでは、科盟設立30周年と日中平和友好条約締結45周年を祝う記念シンポジウムと祝賀会が行われた。シンポジウムでは、駐日中国大使館参事官や科盟理事から主題講演が行われた。続く祝賀会では、冒頭、呉江浩駐日中国大使の挨拶があり、呉氏は、「中日科学技術交流と協力は両国間の平和・友好関係の重要な一部であり、相互補完関係にある両国の科学技術協力には堅実な基礎と大きな潜在力がある。現在、中日関係は過去を受け継ぎ、未来を開く重要な時期にある中、両国の科学技術界が時代の流れに乗り、正しい方向性を把握し、妨害を排除し、両国および世界の人々にとってより良い利益をもたらすため、さらに多くのハイレベルで多様な交流と協力を実施してもらいたい」と述べた。（写真1）

次いで、科盟会長の楊克儉氏の挨拶があり、楊氏は、「当連盟は設立以来、終始「実務、架け橋、貢献」の理念に基づき、地道な努力を重ね、中日の科学技術界、政界、経済界など複数の分野で広く深く交流してきた。30年の発展を経て、当連盟の多くのメンバーはすで日本の大学や企業研究機関で専門家、学者、企業の経営者などに成長した。当連盟は設立30周年を契機に、ブランドの優位性とハイレベル人材の強みを堅持し、中日の科学技術発展と交流により大きな貢献を成し遂げるよう努力していく」と述べた。

続いて、筆者山脇が、日中科学技術交流協会会長の立場で挨拶を行い、科盟が30年にわたり両国の科学技術交流と協力の推進において積み重ねてきた成果を称え、今後の一層の発展を願い、互惠とウィンウィンの関係が実現することを期待するとした。また、日中科学技術交流協会の発足以来の歴史を概

説し、その成果を紹介した。特に中国人留学生研究奨励賞について合計154名の受賞者に授与されてきた成果を強調し、本シンポジウムの司会をされている科盟副会長の趙新為東京理科大学教授もその受賞者のお一人であることを先ほど伺ったので、大変うれしく思うと述べた。（写真2）

（写真3）には、前列に来賓が、そして後ろに参加者の一部が写っている。来賓席の中央が呉江浩中国大使、その右2人目が筆者、その右が岩田副理事長、呉大使のすぐ左が楊克儉科盟会長、その左が藤嶋昭東京理科大学元学長（学術基調講演をされた）。

本イベントに参加して感じたことは、科盟は在日する中国人元留学生の団体であるので、日中科学技術交流協会にとって活動を進める上での有力な協力相手になりうると期待できることである。研究奨励賞応募者の推薦依頼をはじめ、イベントへの参加呼びかけなど、多方面での協力を進められたらと思っています。



図1. 挨拶する呉江浩駐日中国大使



図2. 挨拶する山脇道夫日中科学技術交流協会会長



図3. 記念撮影を行う来賓（前席）

日中両国の友好発展と中国人留学生の貢献

協会業務執行理事 永崎隆雄

読売新聞 2023年6月19日によると学術出版大手シュプリンガー・ネイチャーが、世界の大学や研究所の「研究力」の最新ランキングを発表した。

国別では、中国が米国を抜き、初めて首位に立ち、2位が米国、3位がドイツ、4位が英国、5位が日本、6位フランス、7位韓国だった。

研究機関別では、前年同様、

首位が中国科学院、2位が米ハーバード大、3位が独マックス・プランク研究所、4位が仏国立科学研究センター、**5位が中国科学院大学**、6位が米国スタンフォード大学、**7位が中国科学技術大学**、8位が南京大学、9位が北京大学、10位が清華大学だった。

日本勢は東京大の18位（前年14位）京都大44位（同37位）だった。

中国科学院は当協会の当初1978年からの協力機関である。

当協会は1978年9月には副院長の周培源氏を代表とする中国科学院訪日代表団を受け入れ、福田首相と会見、日中科学技術交流の飛躍的發展に全面的賛意を表明された（会報第5号1978年10月20日参照）。

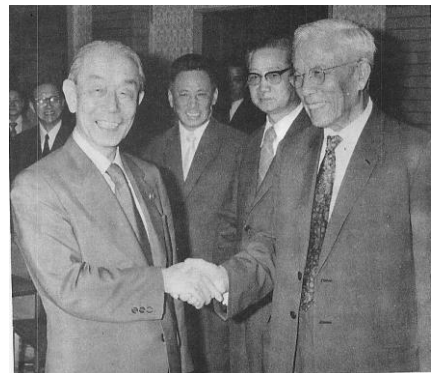


写真 福田総理周培源団長と会見

それから35年の年月が過ぎ2012年科学院は世界トップの研究力を持つに至った。

これは当協会にとって誠に喜ばしい限りだ。

科学院の起源を見ると日本の学术界と縁の深い留学生が貢献し、現在も多くの留学生が研究所で活躍している。

1978年6月27日には初代院長の郭沫若氏のご逝去され、当協会は7月12日に偲ぶ会を実行している。氏は日本に1914年～1923年に留学している。一高、岡山六高、九大医学部である。その後も1937年まで日本(千葉県市川市)に亡命し、日本学术界と関係を深めている。彼のお孫さんは藤田梨那国士舘大学教授で日本に住んでおられる。

Yahoo ニュース 2021年6月30日によれば、中国共産党創立100周年事業で大人気ドラマ『覚醒年代』が作られた。

このドラマの中心的な人物は毛沢東、陳独秀、李大釗の3人だ。のちに「建国の父」となる毛沢東を除き、陳独秀と李大釗は、日本留学経験者であり、日本通である。

陳独秀は1879年、安徽省で生まれた。幼い頃から成績優秀で、1901年、早稲田大学の前身である東京専門学校に留学し、上海で雑誌を創刊。北京大学で文科学長などをつとめ、中国共産党の初代委員長に就任した。

李大釗は1888年、河北省で生まれた。1913年、早稲田大学に留学。李は日本の社

会主義者だった安倍磯雄や、京都帝国大学(当時)でマルクス経済学の研究を行っていた河上肇らを信奉。彼らの影響を強く受けた。李は中国に帰国後、マルクス主義を紹介する論文を多数執筆するが、その学問の基礎は日本で築かれた。その後、彼は北京大学で教授をつとめたが、同じ時期に毛沢東は同大学の図書館員として働いており、毛沢東は李のことを尊敬し「私の先生」と呼んでいたという。

その他に作家魯迅や胡適(コセギ)、国務院総理周恩来なども日本留学経験者だ。

これ以外にも、1900年代前半は、中国から日本に大勢の留学生がやってきていた。共産党の創設メンバー57人のうち、実に3分の1が日本留学経験者だった。

これらの人々は日中友好と発展の礎になった。

2020年度日本には約27万9600人の外国人留学生がいるが、国別では中国が最大で約12万2000人に上る。

中国人が最も多い大学は現在も早稲田大学だ。早稲田のホームページによると、2020年11月1日留学生は中国がトップで、3391人(同大の外国人学生全体の約63%)となっている。

このようなことから我々は中国人留学生を支援鼓舞する研究奨励賞事業を継続し、日中友好の礎を強固なものにしなければならない。

2023 年度中国人留学生研究奨励賞受賞者 選考結果

協会副会長 選考委員会委員長 岩田修一

第22回理事会において2023年度の中国人留学生研究奨励賞の選考結果を報告し以下の3名の受賞が了承された。

1. 李 博 (Li Bo) 氏

研究テーマ:「事故耐性燃料開発に向けたCr/Zr合金界面の合成と微細組織安定性に関する研究」

東京大学大学院工学系研究科原子力国際専

攻博士課程 2023年9月修了

指導教員:阿部 弘亨(東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻教授)

2. 張 雲程 (Zhang Yuncheng) 氏

研究テーマ:「高い電力効率の無線送信機集積回路の研究」

東京工業大学大学院理工学研究科電子物理工学専攻博士課程 2022年9月修了

現在：東京工業大学工学院特任助教
指導教員：岡田 健一（東京工業大学工学院
電気電子系教授）

3. 王 欣峰 (Wang Xinfeng) 氏
研究テーマ：「Point-of-Interest (POI)推薦

に関する手法開発」
山梨大学大学院工学専攻博士課程在学中
(D1)
指導教員：福本 文代（山梨大学大学院総合
研究部工学域教授）

研究奨励賞基金のご寄付のお願い

発起人 山脇道夫 岩田修一 永崎隆雄

一般社団法人日中科学技術交流協会へのご支援、ご協力を厚く感謝申し上げます。

中国人留学生は我が国にあって苦しい生活中、勉学に励み、素晴らしい研究を成し遂げ、帰国すれば高位の地位を得、日本に残れば優秀な研究者、技術者として、日本の学会、産業界に貢献し、日中両国に多大の貢献をしております。

当協会としては留学生を鼓舞し、支援すべく、1985年に研究奨励賞基金を設け、1987年より154名の方に奨励賞授与を行い、副賞で10万円を授与してまいりました。

この基金は一般社団法人設立時2018年

3月31日には枯渇しました。以後会費収入と寄付金収入で副賞を賄ってまいりました。

最近では応募者が増加しつつあり、優秀な応募者が増えました。そのため、従来への受賞者数を増加させたく、ご寄付のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

ご寄付金1口金 10,000円で1口以上
(振り込み先)

普通預金 みずほ銀行横山町支店
店番040 口座番号3015881
一般社団法人日中科学技術交流協会

第21回理事会 10月25日

南華大学教授韦悦周（韋悦周）氏の協力会員入会を承認した。

今後の日中科学技術交流の進め方について構造材料の標準・基準・規格分野について八木監事より話題提供があり、意見交換が行われた。規格は関与するステークホルダーの合意形成の結果であり、最新の中国の科学技術の動向について理解を深め、日本国内での地道な連携を継続し、協会として日中間の交流に如何に貢献できるかを模索することが大切であることが確認された。

第22回理事会 12月15日

在日中国科学技術者連盟設立30周年記念シンポジウム参加の報告が会長からなされた。

研究奨励賞は10名の応募があり、審査の結果、李博氏、張雲程氏、王欣峰氏の3名が選ばれた。

審査委員会内規案が検討された。

会費納付の御礼

2023年度会費につきましては、2023年2月23日から12月10日時点で以下の29名の方々から29万円の納付がありました。また以下の10名の方から17万円のご寄付がありました。2月23日以前の納付の方は22年度会費といたしました。厚く御礼申し上げます。

会費納付された方

山脇様、欧陽様、山田様、福田様、広瀬様、山岡様、余様、近藤様、岡田様、藤田様、坂部様、坂部様（奥様）、曾我様、DaBao様、岩田様、中河様、陳迎様、石原様、數土様、田村様、永崎様、坂田様、依田様、有山様、梶谷様、八木様、任様、西村様、巨様

ご寄付された方（1口=1万円）

山脇様3口、欧陽様3口、坂部様2口、有山様2口、田村様2口、福田様1口、余様1口、近藤様1口、數土様1口、永崎様1口

未納の方はご納入をお願いいたします。

正会員会費 年額1万円

振込先 日中科学技術交流協会

普通預金 みずほ銀行 横山町支店

店番040 口座番号3015881

目次

1. 日中科学技術交流協会の一層の発展を期待する	
理事 千葉大学名誉教授 山岡亜夫	1
2. 中国大使館訪問	
会長 山脇道夫	3
3. 在日中国科学技術者連盟設立30周年記念イベントに参加して	
会長 山脇道夫	4
4. 日中両国の友好発展と中国人留学生の貢献	
協会業務執行理事 永崎隆雄	5
5. 2023年度中国人留学生研究奨励賞受賞者選考結果	
副会長 選考委員会委員長 岩田修一	6
6. 研究奨励賞基金のご寄付のお願い	
協会業務執行理事 永崎隆雄	7
7. 第21回理事会10月25日	8
8. 第22回理事会12月15日	8
9. 会費納付の御礼	8